

令和7年度市立各中学校における ヤングケアラー把握のための 実態調査結果（全体版）

健康こどもみらい部 こども家庭センター こども相談係

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

1 アンケート調査概要	<ul style="list-style-type: none">対象校、対象者、実施期間、実施方法、アンケート内容
2 結果概要	<ul style="list-style-type: none">有効回答数各項目の割合考察
3 こども家庭センターから	<ul style="list-style-type: none">早期発見について相談、通告先についてさいごに

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

1 アンケート調査概要

● 対象校	• 市立中学校 13校
● 対象者	• 中学1年生から3年生の全生徒
● 実施期間	• 令和7年5月20日から7月18日まで（1学期中に各校の判断で実施）
● 実施方法	• GIGA端末を用いて、Googleフォームにて回答

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー 把握のための実態調査結果（全体版）

1 アンケート調査概要

●アンケート項目 (別紙参照)	<ul style="list-style-type: none">・ 学校名・ 学年・ 世話をしている人の有無・ 世話を誰としているか・ 週に何日お世話しているか・ 平日に何時間お世話しているか・ お世話に大変を感じているか
--------------------	---

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要	
●有効回答数	<ul style="list-style-type: none">3,483件（人） ※令和7年5月1日現在生徒数 5,352人
●回答率	<ul style="list-style-type: none">65% (3,483人/5,352人)

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要

●お世話をしている人が「いる」と回答した生徒の割合

○全体	• 6.9% (242人/3,483人)
○中学1年生	• 9.4% (104人/1,107人)
○中学2年生	• 6.7% (74人/1,104人)
○中学3年生	• 5.0% (64人/1,272人)
※参考 前回調査 (令和4年度)	• 小学6年生（現 中学3年生） 11.4% • 中学2年生 7.9%

令和 7 年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要

● お世話している人が「いる」と回答した生徒の割合	<ul style="list-style-type: none">全国平均（5.8%）と比べると高い割合となっている。 (こども家庭庁令和 6 年度教育相談協議会資料から) ※クラスに 1 ~ 2 人程度在籍している計算となる本市の前回（令和 4 年度）調査よりは低い割合となっている。
---------------------------	---

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要	
●お世話を誰と一緒にしているか（複数回答可）（有効回答数 242人）	
○家族、親戚と行っている	• 92.6% (224人/242人)
○自分で行っている	• 16.1% (39人/242人)
○福祉サービス、事業者（ヘルパーなど）を利用して行っている	• 7.9% (19人/242人)
○その他	• 2.1% (5人/242人)

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要

●週に何日お世話しているか（有効回答数 241人）

○ほぼ毎日	• 49.0% (118人/241人)
○週に3～5日	• 22.0% (53人/241人)
○週に1～2日	• 15.8% (38人/241人)
○1か月に数回	• 10.0% (24人/241人)
○その他 (数か月に1回 等)	• 3.3% (8人/241人)

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー 把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要	
● 平日に何時間お世話しているか（有効回答数 242人）	
○ 1 時間未満	• 40.1% (97人/242人)
○ 1 時間～2 時間未満	• 21.9% (53人/242人)
○ 2 時間～3 時間未満	• 14.0% (34人/242人)
○ 3 時間～4 時間未満	• 6.2% (15人/242人)

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要	
● 平日に何時間お世話しているか（有効回答数 242人）	
○ 4時間～5時間未満	• 5.4% (13人/242人)
○ 5時間～6時間未満	• 2.5% (6人/242人)
○ 6時間～7時間未満	• 2.1% (5人/242人)
○ 7時間以上	• 7.9% (19人/242人)

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー 把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要	
●お世話することに大変さを感じているか（複数回答可） (有効回答数 242人)	
○身体的に大変	• 27.3% (66人/242人)
○精神的に大変	• 26.0% (63人/242人)
○時間的に余裕がない	• 32.6% (79人/242人)
○特に大変さは感じていな い	• 48.8% (118人/242人)

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要

● 考察

- お世話を「自分だけ」で、「ほぼ毎日」行っている生徒が7人いた。そのうち、「大変さを感じている」「余裕がない」と回答した生徒は3人である。この7人の中には、平日のお世話時間が「7時間以上」の生徒もいるが、「1時間未満」の生徒も含まれているため、お世話をしている時間の長さだけでは負担感は推し量ることができない。

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要

● 考察

- 家族の中に世話をしている人が「いる」と回答した生徒は242人いた。そのうち、118人は「毎日」「ほぼ毎日」お世話をしていると回答している。一方、その118人のうち51人は「特に大変さは感じていない」と回答しており、世話の頻度だけでお世話の負担感は推し量ることができない。

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要

● 考察

- ・ 「ほぼ毎日」、平日に「7時間以上」お世話をしている生徒は15人いた。そのうちで、73%（11人/15人）はお世話をすることに何らかの大変さを感じている。
- ・ ヤングケアラーと思われる生徒と面談等をする際には、お世話の頻度と一日のお世話の時間を併せて確認し、注意を払う必要がある。

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

2 結果概要

● 考察

- 学年が高くなるごとに、世話をしている人がいると回答する割合が少なくなっている。
これは高学年になるほど、ケアを特別なものと捉えなくなることや、プライベートを隠す等の理由が考えられる。
- 家族の中に世話をしている人が「いる」と回答した生徒のうち、大変さを感じている生徒の割合について、学年での差異は見られなかった。
(1年生55.8%、2年生55.4%、3年生54.7%)

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

3 こども家庭センターから

● 早期発見について	<ul style="list-style-type: none">• ケアが過度な負担になっていると、学校生活に影響や変化が現れることがある。その変化にいち早く気づくことで、早期発見につながる。 (例) 【本市作成マニュアル参照】• 本人の健康に問題はなさそうだが、遅刻、欠席、早退が多い（増えた）、不登校である（不登校になった）、保健室で過ごすことが多い（増えた）• 宿題をやってこなくなった• クラスマイトや友人とのかかわりが減った 等
------------	--

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

3 こども家庭センターから	
●相談、通告先について	(相談、通告先) こども家庭センターこども相談係
① 支援者向け	046-225-2244 (庁内関係各所は、内線 2244)
② 本人、保護者向け	046-221-0181

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

3 こども家庭センターから

●さいごに

- 家庭でのお手伝いも、ヤングケアラーによるケアも、共通するのは、「本来は大人が担うべきもの」ということである。
- お手伝いは、将来の自立に向けて行うものであり、本人の過度な負担にならないようなものである必要がある。
- 一方、ヤングケアラーは、こどもを「ケアの担い手」としており、本人に過度な負担がかかっている状態を指す。

令和7年度市立各中学校におけるヤングケアラー把握のための実態調査結果（全体版）

3 こども家庭センターから

●さいごに

- こどもがケアを行っていると聞いて、学校生活に影響や変化が出ていることがわかった等、もしかしたら「ヤングケアラーかも？」と思ったら、遠慮なくこども家庭センターまで御連絡をお願いしたい。
- こども家庭センターの存在が、すべての子どもの健やかな成長への一助となれば、幸いである。